



2024.NO

147

# ほろび



## 大谷翔平選手からの寄贈

各小学校へ届けられた

## 「野球グローブ3つ」

### 目次

- ・第4回定例会 ..... 2・3
- ・一般質問一覧 ..... 4~7
- ・一般質問 ..... 8~18
- ・トピックス ..... 19
- ・総務建設常任委員会研修報告 ..... 20・21
- ・厚生文教経済常任委員会研修報告 ..... 22・23
- ・議会の動き／軌跡 ..... 24

令和5年

第4回

定例会

追加予算

1億7,939万3千円を可決

うち一般会計は1億321万1千円

## 農林業振興に係る事業費

(肉用牛及び乳用牛の改良・増殖を推進するための  
受精卵協議会への運営補助金など)

町道改良事業費、乗合タクシー事業補助 ほか

令和5年第4回定例会は、12月5日から8日までの4日間の日程で行われ、令和5年度各会計補正予算5件、条例改正等4件、人事案件2件、諮問1件が上程され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり可決した。

なお、今回の一般質問には、11人が登壇し、執行部の考えを質した。

## 条例改正等

① 錦町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

人事院及び熊本県人事委員会の勧告に準じ、改正するもの

② 錦町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う所要の改正と国民健康保険税の納期を改めるもの

【改正後の納期】①7月②8月③9月④10月⑤11月⑥12月⑦1月⑧2月

(丸数字は第〇期。各月1日から末日まで(12月のみ25日まで))

③ 錦町下水道事業に地方公営企業法の全部を適用することに伴う関係条例の整備に関する条例

令和6年4月1日から下水道事業の会計を特別会計から公営企業会計へ移行し、公営企業法を適

用する事に伴い、関係条例を整備するもの

## その他

① 財産の取得について

取得の目的 情報配信サービスプラットフォーム構築業務に伴う高齢者等世帯向け専用タブレット端末及び通信用Wi-Fiルータ購入

品名等

変更前 専用タブレット端末及び通信用Wi-Fiルータ

各1,200台

変更後 専用タブレット端末及び通信用Wi-Fiルータ

各1,500台

取得金額

変更前 業務委託契約額

1億4千971万円のうち

7千656万円

変更後 業務委託契約額

1億8千579万円のうち

9千570万円

契約の相手方  
愛知県刈谷市昭和町二丁目1番地

株式会社 デンソー

## 人事案件

### ① 錦町教育委員会委員の任命について

住所 錦町大字一武3039番地  
氏名 西 志穂

### ② 錦町固定資産評価審査委員会委員の選任について

住所 錦町大字西2896番地1  
氏名 荒川 伸一

## 諮問

人権擁護委員候補者の推薦につき  
意見を求めることについて

住所 錦町大字一武4343番地  
氏名 山富 照巳

## 令和5年第6回臨時会

令和5年10月10日に行われ、契約  
についての議案が1件上程され、  
原案のとおり可決した。

### ① 町道山江錦線（木綿葉大橋）下部 工補修補強工事（2期） 請負契 約について

契約金額 1億1千165万円

契約の相手方

人吉市西間上町810番地1

三和建设株式会社

## 令和5年第7回臨時会

令和5年12月25日に行われ、一  
般会計の補正予算、錦町手数料  
条例の一部を改正する条例など  
の4議案が上程され、いずれも  
原案のとおり可決した。

なお、一般会計の補正（2億1

千635万9千円）の主な内容  
は、非課税世帯に7万円を追加  
給付する電力・ガス・食料品等

価格高騰緊急支援給付金、LP

ガス価格高騰対応生活者支援事

業補助金（第2弾）、子育て世帯

生活支援給付金（18歳以下の者

へ一人1万円）、道路改良事業費

など。

## 条例改正

錦町手数料条例の一部を改正する  
条例

戸籍法の改正に伴い、新たに発行  
手数料を設けるほか、所要の改  
正を行うもの

## 契約

町道風月野線法面対策工事（2期）  
請負契約の締結について

契約金額

変更前 4千840万円

変更後 5千112万6千199円

契約の相手方

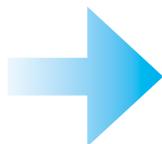
錦町大字一武2745の1

株式会社 イトウ建設

## あいねっと放送告知端末



旧



専用タブレット端末

新

## 第4回定例会一般質問事項一覧①

議員名	質問事項	質問の要旨
梶原議員 (P8)	地域福祉を推進する中心的な団体としての社協の在り方について	<p>①令和5年度社協事業計画の基本方針に、「国県町が進める施策と合わせて、地域福祉の推進を図る」とあるが、国が進めている地域共生社会の実現に向けた仕組みづくりにおける社協の役割の検証はされているのか。</p> <p>②地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するためには、既存事業を見直す必要があるのでは。</p> <p>③6月定例会で質問した「地域包括ケアシステム」の実現には、地域の福祉力に係ることが大きいので、社協委託型の「地域包括支援センター」に組織改編してはどうか。</p> <p>④地域の福祉力は、ボランティアの育成が重要である。「和」等の自立運用できるボランティア団体の育成支援の取組についてはどのように考えるか。</p> <p>⑤ボランティア支援としてのポイント制度の活用拡大を図るべきでは。</p>
竹田議員 (P9)	錦町におけるボランティア活動ポイントカードについて	<p>①錦町ボランティア支援事業で、生き生きサロン、縁がわのボランティア活動状況は。</p> <p>②1年間のボランティアポイント交付額は。</p> <p>③ボランティアポイント額を上げられないか。</p> <p>④高齢者のボランティア活動地域貢献型（公民館周辺の清掃、花畑作り）へのポイントカードは出せないか。</p>
	錦町乗合タクシーについて	<p>①錦町乗合タクシー事業検討委員会はあるが、委員会は定期的開催か。必要な時の委員会か。</p> <p>②1年間利用は。利用者の多い地区は。運賃収入、運行経費は。</p> <p>③イオン錦店前の乗合タクシー乗り入れはできないか。</p>
	中小規模事業者への支援について	<p>①農家支援の資材価格高騰対策支援事業の申請者数、申請金額は。</p> <p>②中小規模事業者への支援は。</p> <p>③プレミアム商品券、令和6年度はプレミアム率15%～20%の検討、町外の方々への販売はできないか。</p>

※要旨…質問についての詳しい質問

## 第4回定例会一般質問事項一覧②

議員名	質問事項	質問の要旨
丸小野議員 (P10)	地域運動部活動推進事業について	①錦町における運動部活動の現状と課題。 ②メリットとデメリットについて。 ③学校の働き方改革への影響について。
	社会現象となっている広義の「引きこもり」について	①不登校の現状と課題。 ②いわゆる広義の「引きこもり」について、錦町においては現状を把握できているか。
池田議員 (P11)	食物アレルギー等を持つ児童・生徒の現状について	①除去食及び安心安全な代替食提供はできているのか。 ②給食費の全額補助に対して、アレルギー児童、若しくは生徒の弁当に対する補助は。 ③現状の設備について、今後の対策は。
	図書館の耐震化対策について	①耐震判定基準（耐震診断）を満たしていない施設の今後の対策は。
	町民の声より	①高齢者支援への将来的考えは万全か。 ②障がい者への補装具（義手・義足・補聴器・眼鏡等）の定期支援はできないか。 ③副町長の人事について。
谷口議員 (P12)	今後のくま川鉄道について	①被災したくま川鉄道は2025年全線開通を目標となっている。上下分離方式における、関係自治体、錦町の対応はどのようなものになるのか。 ②ボランティア活動にて線路内除草が行われたが、JRの時にはきちんと行われていた敷地内除草もくま川鉄道になってから除草管理に苦情が出ている。これからはどのように対応されるのか。
	木上コミュニティーセンターについて	①令和2年の災害時に木上コミュニティーセンター裏の被害によって木上小学校体育館へ避難が変更となったが、これからも避難場所は木上小学校の体育館とするのか。 ②木上地区の中心となる木上コミュニティーセンターだが、改修等の計画等はあるのか。
	機能別消防団について	①現在の機能別消防団の状況について。 ②人員数、入団、退団状況等。

※要旨…質問についての詳しい質問

## 第4回定例会一般質問事項一覧③

議員名	質問事項	質問の要旨
吉田議員 (P13)	農業の振興と住民の安心安全について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①国の遊水地計画に対する町の対応は。</li> <li>②流域治水取り組み、田んぼダム（小中学生へ）の周知と公共施設に雨庭設置の考えは。</li> <li>③農業共済組合（収入保険）保険料等補助の考えは。</li> <li>④町内の農道、町道、県道に覆いかぶさる樹木について。</li> <li>⑤道の駅近くに宿泊特化型ホテル誘致の考えは。</li> </ul>
	過去の質問から	<ul style="list-style-type: none"> <li>①木上高原地区茶園横の防風林の落葉による異物混入対策、その後について。（令和4年12月）</li> <li>②県道錦湯前線と町道工業団地線交差点内の段差と横断歩道新設について、県への要望その後について。（令和4年3月）</li> </ul>
金山議員 (P14)	6月定例議会一般質問答弁後における状況について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ふるさと錦寄付金に係る新たな返礼品開発と効果について。</li> <li>②町道松里線速度規制に係る協議結果について。</li> </ul>
	財政運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①経常収支比率が県内で低位にある状況分析について。</li> <li>②経常収支比率低下要因について、広報誌では経費削減によるとあるが、他の要因について。</li> <li>③余裕財源の充当政策的経費について。</li> <li>④健全財政運営には、ふるさと錦寄付金が不可欠と思うが、直近のふるさと錦寄付金の状況と今後の確保方策について。</li> <li>⑤ふるさと納税制度による町民税収への影響について。</li> <li>⑥ふるさと錦寄付額及び行財政改革推進を図るためのプロジェクトチーム設置について。</li> </ul>
石松議員 (P15)	錦南部農免道路及び町道の管理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①錦南部農免道路の進捗状況について。</li> <li>②錦南部農免道路の管理について。</li> <li>③町道に関わる所有者不明や管理不能な民地の対応は。</li> </ul>
	球磨村大王原公園仮設団地のその後	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状と今後の方針は。</li> <li>②多目的な取り組みの考えは。</li> </ul>
	畑地化支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①畑地化の申請状況は。</li> <li>②畑地化支援の現状の把握は。</li> <li>③錦町としてはどのように進めるのか。</li> </ul>
	不登校の支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①錦町の現状は。</li> <li>②不登校の実態をどのように捉えておられるのか。</li> <li>③不登校の原因の把握と解消に向けた取り組みは。</li> <li>④不登校児童・生徒の保護者への支援は。</li> <li>⑤フリースクールへの取り組みは。</li> </ul>

※要旨…質問についての詳しい質問

## 第4回定例会一般質問事項一覧④

議員名	質問事項	質問の要旨
岡田議員 (P16)	本町に計画されている遊水地問題について	①なぜ本町だけに集中しているのか。 ②計画されている場所は本町の優良農地であり、農家は打撃を受ける。錦町としての考えは。
	「ふるさと納税」の制度改正が行われた影響は	①制度改正の内容と問題点は。 ②「ふるさと納税」は町民支援のための貴重な財源である。対応策は。
	本町の有形無形文化財の保護について	①本町にどのような文化財があるのか。 ②文化財を保護し、後世に残すためどのような対策を行っているのか。
早田議員 (P17)	農業の生活を脅かす遊水地計画について	①遊水地計画予定地について、本町の認識は。 ②農家の生活を脅かすおそれがある。 ③反対活動が広まった時、建設計画はどのような。
	性的マイノリティに関する理解と学校における対応は	①本町の教育現場での状況は。 ②性同一性障害に係る、児童生徒に対する支援の考えは。 ③学校外における連携、協働について。
	南部道路からの町道の交通量増加について	①町道志戸内谷線の交通量増加について。 ②交通量増加への対策は。
荒川議員 (P18)	行政区（分館）の体育行事合同化について再度検証	①本町の体育行事はほとんどが分館対抗となっている。だが、世帯が多い分館、少ない分館と世帯数が大きく違う。このままでいいのか？令和5年3月定例会の検証。
	人吉球磨10市町村の今後について	①定住自立圏共生ビジョン「第2次までの検証」と来年度策定の「第3次」に向けての検証。 ②市町村合併について、現在の町長の考えは。

※要旨…質問についての詳しい質問



照明機器の更新工事が完了し明るくなった議場

一般質問

今回は11人が登壇（要約掲載）

町政のことが聞きたい！

地域福祉を推進する社協のあり方



かじわら せいじ 梶原 誠二 議員

**梶原** 国が進めている「地域共生社会」は、地域福祉の政策化であり、地域福祉の核となる社協の役割は検証されているのか。また、住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対し既存事業を見直す必要があるのでは。

**住民福祉課** 国は、令和2年の社会福祉法改正で、地域共生社会の具体

化として、高齢・障がい、子ども等の属性に捉われない重層的支援体制の整備を求めている。現状の社協の総合相談事業では生活困窮、借金、ひきこもり、住まい等の問題を受け付け専門職等に繋いでいる。ひきこもり等の対応については、未整備の状況で、専門職の伴走型支援と併せて、地区社協の見守り等の地域センター、地区社協のネットワークの整備が必要である。

**梶原** 重層的支援体制整備事業は、各制度を問わない包括的な支援体制を市町村の創意工夫をもって実施できる仕組みで、財源として交付金を創設し、市町村に実施を求めている。

**梶原** 地域包括支援センターが今後取り組んでいく地域包括ケアシステムは、介護医療サービスの充実だけでなく、地域の中で住民が主体的に活動し、生活支援を作っていくことである。そもそも社協の地域福祉の

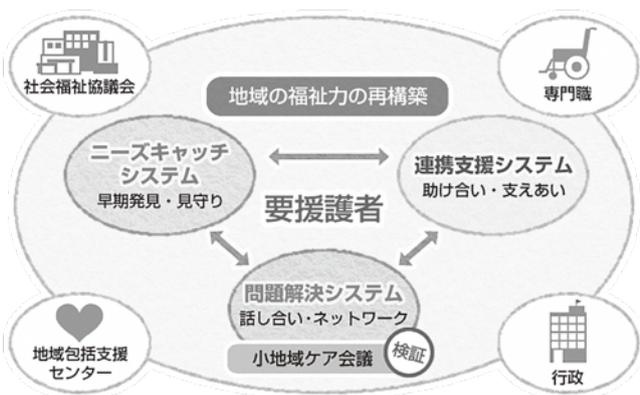
社協が今まで構築してきた総合相談事業、小地域ネットワーク等は、この事業が求めている内容に見直すことで対応できるものと考えている。積極的に検討されたい。次に、地域包括支援センターの社協委託、「和やかなごみ」等の自立運営できるボランティア団体等の育成支援、ボランティアポイント制度の活用拡大についての3点について考えを聞きたい。

**保険政策課** 地域包括支援センターは設置当初から直営で運営されており、社協委託は考えていない。ボランティア団体の育成支援については社協が中心的役割を担っているが、全面的な協力を考えている。ボランティアアポイント制度の活用拡大を図るためには社協が主体となった運用が必要と考える。

**梶原** 地域包括支援センターが今後取り組んでいく地域包括ケアシステムは、介護医療サービスの充実だけでなく、地域の中で住民が主体的に活動し、生活支援を作っていくことである。そもそも社協の地域福祉の

推進は、福祉や保険などの多様な生活課題に地域全体で取り組む仕組み作りであり、今まで取り組んできた事業は、見直すことにより重層的支援体制整備事業に十分対応でき、ボランティアを中心とした地域福祉推進のプラットフォームとしての位置づけを確立できると考えるので、事業実施を検討されたい。

**町長** 少子高齢化の中では、地域の福祉力は重要であり、地域福祉推進の社協の在り方を検証したい。



地域の福祉力の再構築イメージ

## 錦町ボランティア支援事業

**竹田** 錦町ボランティア支援事業でいきいきサロン、地域の縁側のボランティア活動状況は。

**保険政策課** いきいきサロン36箇所、地域の縁側35箇所で行われている、開催状況も毎週や月1回であったり様々である。

**竹田** 1年間のボランティアポイント交付額は。

**保険政策課** サロン等のお手伝いや介護保険サポートとして活動されている方にポイント寄与している。



たけだ のりと  
**竹田 農利人 議員**

令和3年23万6千円、令和4年24万1千円、令和5年度（11月末現在25万6千円）となっている。

**竹田** ボランティアポイント額を値上げはできないか。

**保険政策課** 評価ポイント1ポイントあたり100円。年度ごとの

限度額はサロン等の手伝いの方は8千円、介護予防サポーターの方は5万5千円としている、今のところ評価ポイントの見直しは考えていない。

**竹田** 高齢者ボランティア活動地域貢献型（公民館周辺の清掃等）ポイントカードは出せないか。

**保険政策課** 現在のボランティア支

援実施要綱では、活動となる対策ではない。今後社会福祉協議会と協議を行っていききたい。

### 今後の錦町乗合タクシー

**竹田** 錦町乗合タクシー事業検討委員会はありますが、開催は必要時間開催か。

**総務課** 乗合タクシー事業に関する

調査、検討を行うため設置、運行計画見直しに関する協議事項が出てきた際に開催となる。

**竹田** 乗合タクシーの1年間の利用数、運賃収入、運行経費は。

**総務課** 利用者増加で移行、令和4年2千614人、収入は42万3千円経費238万4千円。

**竹田** イオン錦店前への乗合タクシー乗り入れは出来ないか。

**総務課** 利用者から要望があれば、

錦町公共交通会議での協議が必要となる。要望状況等確認し協議したい。

### プレミアム付き商品券

**竹田** プレミアム付き商品券発行事業で令和5年は10%のプレミアム付きであった。令和6年度は15%、20%のプレミアム付き発行の考えは。

**企画観光課** 燃油高騰及び物価高が継続、事業者町民の皆様が影響を受けておられる状況を鑑みても、何らかの経済対策は必要。今後の経済情勢を見ながら、多くの町民の皆様

に効果をもたらす事業を検討し、プレミアム付き商品券も、町の財政状況を勘案しながら実施の可否の検討から進めたい。



錦町プレミアム付き商品券

# 地域運動部活動推進事業について



丸小野 聖一 議員

**教育振興課** 課題は大きく3点ある。

**丸小野** 錦町の運動部活動の現状は。

**教育振興課** 今年度中に地域移行への協議・検討を行う検討委員会を実施予定となっている。その委員会の中で、様々な意見を頂戴し方針を決定することになるが、どちらかと言えば移行に関しては消極的な考えである。

**丸小野** 課題とメリット・デメリットは。

④教育的意義の大きい部活動をクラブチームが継承できるかという問題。の4点がある。

## 不登校の現状と課題について

**丸小野** 不登校について現状と課題は。

**教育振興課** まず不登校の定義は、「何らかの心理的、情緒的、身体的、

或いは社会的要因により、登校しない

或いはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による

者を除いた者」とされている。当町の不登校の現状は、昨年10月末で4

小中学校トータル15名となっている。その原因究明や解消に向けた取

組を行う対策協議会を学校内外の関係者と協力して開催し、少しずつ学

校に登校できるようになった者もこの中にはいるが、年間欠席が30日以

上になってしまうと先ほどの不登校の定義に該当する。課題としては①

学習機会の均等な提供ができない。  
②学校運営側の問題で、児童生徒一人一人の対応するため超過勤務の原因になることもある③児童生徒、家庭の問題がある。令和2年度からのコロナ感染症による休校や学級閉鎖が起因となり不登校に繋がる例もある。

**丸小野** 教育長の考えは。

**教育長** 不登校に関しては、一つ一つの事例に深く関わらなければ改善の方向が見えない。登校することだけに拘るのではなく、将来の自立に繋がる力をつけていくために、柔軟にそして継続した取組を行う。



地域運動部活動  
推進事業について

## アレルギーを持つ児童・生徒の現状について

**池田** 年々増加傾向にある、各小中学校の食物アレルギーを持つ児童・生徒数は、

**教育振興課** 食物アレルギー児童・生徒数は、令和5年度、小学生10人・中学生2人、令和4年度が小学生13人・中学生3人で若干減少している。

**池田** 5年度から給食費が全額補助となったが、アレルギー生徒の弁当に対する補助はどのように考えているか。

**教育振興課** 児童生徒のそれぞれ状況によって1食あたりの摂取量等を

把握することとなり、単価の算出が困難であることから、アレルギー生徒の弁当持参に対する補助は今のところ考えていない。

**町長** 今後しっかりと検討させていただきます。

**池田** 現状の設備では、アレルギーの除去及び代替食を提供することは困難であるとの対応は。

**町長** 将来的に、施設を建て替える際には、除去食、代替食が提供できるような施設と強く感じている。

### 図書館の耐震化対策について

**池田** 図書館が入っている昭和50年建築の青年会館が耐震判定基準を満たしていない。この指摘に対する対応は。



耐震判定基準を満たしていない青年会館

**教育振興課** できる限り早期の建て替えを検討していきたい。

**町長** 消防組合の下球磨と上球磨の合併を進めている中で、東分署の移設を考えているので、そのスペースに図書館をと考えている。

### 高齢者支援は

**池田** 事情があつて、働くことのできない高齢者で国民年金受給者の方たちに、年金基金を立ち上げ、支援することはできないか。

**町長** 非常に難しい質問だが、まずは、助けていくのが国だと思つるので、町独自で基金を作るのは考えていない。

### 障害者への補装具の定期的支援は

**池田** 障害者への義手、義足、補聴器、眼鏡等の定期的な支援で、県のホームページでは、1年から5年の中で、3年と記載されているが。

**住民福祉課** 補装具については国の制度であり、錦町においてもその対応年数によって支援を行っている。

**池田** 全額補助はできないか。

**住民福祉課** 原則1割負担で、非課税世帯、生活保護世帯の生活保護世帯の負担はない。

### 副町長の人事について

**池田** 町民の皆様方は副町長のことを尋ねておられる。

**町長** 職員・担当課長が頑張っている、今のところ必要ないと考えている。



いけだ ひではる  
**池田 秀晴** 議員

# 令和二年の水害にあった 今後のくま川鉄道について



たにぐち かずや 議員  
谷口 一也

**谷口** 沿線の住民の方から除草で苦  
労していると相談を受けているが。

**総務課** 鉄道施設の維持管理費用に  
ついは、球磨郡市10市町村が負担す  
ることになっているので、各市町村  
の負担割合に応じて負担をしていく  
ことになる。

**谷口** 公共交通計画と錦町のくま川  
鉄道の位置づけについて。

**町長** 上下分離方式の採用で、地元  
実質負担が2・5%で済む。97・5  
%は国の補助。沿線を使った活性化  
については球磨中央高校を生かした  
やり方が必要と考える。

**総務課** 被災翌年の令和3年3月に  
熊本県管内10市町村及びくま川鉄道  
株式会社により、くま川鉄道の復旧  
に関する確認書が取り交わされて  
いる。

## 木上コミュニティセンターについて

**谷口** 木上コミュニティセンターか  
ら木上小学校体育館へ避難所が変更  
になった。緊急の食料備蓄倉庫もあ  
り裏側法面の崩落を防ぐような工事  
を行い木上コミュニティセンター  
に戻したほうがいいのではないか。

**町長** 木上小学校のプールも敷地の  
中にあり、学校教育として使ってい

るということも鑑み、今の指摘があ  
った点については、今後しっかりと  
工事施工、擁壁を伸ばしてくるか、  
そういう方法も検討する。

## 機能別消防団について

**谷口** 現在の機能別消防団の状況に  
ついて。

**総務課** 平成26年度から担当区域に  
おける火災の初期消火及び後方支援  
を主な職務として活動をしている。  
ここ数年は、60名から70名程度の  
方々に機能別消防団として所属をし  
てもらっている。出動機会も限られ  
るということで、現役団員との連携  
も検討していきたい。退団について  
は、自分の申出によって退団という  
形となる。今年の退団者四名がいた  
が、ここ数年はずっと増える形が多  
かったなので、その仕組みづくりにつ  
いては考えていく。



木上コミュニティセンター裏側法面

## 住民の生命財産を守る

### 流域治水を考える

**吉田** 遊水地に対する町の対応は。

**地域整備課** 国に対して丁寧な説明と意見をよく確認するように伝え、関係する方々の御意見、下流域に計画されている遊水地の状況を見ながら判断を行う必要があると考える。

**吉田** 地域一帯は優良農地、風光明媚な田園風景が壊される、本町の基幹産業である農業を守っていかねばならない。町長のご意見、考えを聞きたい。

**町長** 球磨川流域全体の整備計画の基本は川辺川ダム。個人的な見解だが遊水地については否定的な考えを持っている。

**吉田** 田んぼダム、小中学生への周知と公共施設に雨庭設置、豪雨災害から地域住民を守る取り組みとして検討願いたい。

**地域整備課** 田んぼダムの重要性は認識している。小中学生への説明会体験会を検討していきたい。

**総務課** 今のところ具体的に雨庭設置についての検討はしていない。

### 自然災害等による農業収入減少対策に

**吉田** 農業共済、農業経営収入保険料の補助の考えは、県内の自治体で補助が実施されているが、人吉球磨

地域では実施自治体がないと聞く。農業の振興の為に補助の検討をすべきでは。

**農林振興課** 豪雨等の自然災害、農業資材の高騰様々なりリスクから農家の経営を守る収入保険への加入が推進されている。県内で3分の1の自治体の一部補助を行っている。農業共済組合からも補助の実施の要望があり状況を見ながら効果を比較し検討したい。

### 過去の質問、その後は

**吉田** 県道錦湯前線と町道工業団地線交差点内の段差解消と横断歩道設置、県への要望その後の進捗状況は。

**地域整備課** 令和2年度より熊本県へ舗装打ち換えを要望し現地確認済み。熊本県が優先順位をつけて順次実施だがすぐすぐの対応は困難かと思われる。

**総務課** 横断歩道新設については県公安委員会所管で人吉警察署に横断歩道と歩行者用信号機の増設設置についての要望書を提出。進捗状況は先月末も含めて何度か確認し調査中との回答を得ている。今後も進捗状況の確認をしていく。

**吉田** 優先順位をつけて順次実施する事は、理解している。交差点内タイヤ痕が残っている状況。事故がないのが不思議だ。親御さん、或いは中学生から「まだできないのですか」「安全・安心して通れるよう出来る限りの要望をしてもらいたい。」



よしだ しんじ  
**吉田 眞二** 議員



このままでは危ない！！

# 貴重な財源である 「ふるさと錦寄付金」の確保を



かなやま たみゆき  
**金山 民幸** 議員

**総務課** 事務経費削減やふるさと納税を原資としたふるさと錦ゆかり基金を3億円取崩し、子育て支援や予防接種、教育費等に活用したことがある。

**金山** 比率から政策的経費に約7億5千万円が使用できることになるが、どのような経費に充当しているか。

**総務課** 道路橋梁整備や災害復旧事業の負担分約3億9千万円、減債基金積立金に3億6千万円を充当している。

**金山** 錦寄付金は貴重で不可欠な財源と思うが、直近の寄付金の状況と今後の確保方策は。

**企画観光課** 寄付額は10月末で3億2000万円で、前年度同月を1億1

千600万円上回っている。このことは10月からの制度改正による返礼品値上に寄付者が反応した結果で、10月のみの実績は前年同月比12・8%となっていることから危機感を持っている。今後の対策は委託業者の取組みと町全体の魅力発信に努め、返礼品の特徴や生産者のこだわりを伝え観光事業等と連携し進めていく。

**金山** ふるさと納税制度における町民税への影響は。

**税務課** 影響額は町民税分として、約360万円が減少している。

**金山** 経常収支比率のみを見れば財政は余裕があるように見えるが、実質単年度収支等から本町は厳しい状況にある訳で、目前の対策としてふるさと錦寄付金が最たるものと思うが、町長の考えは。

**町長** 4年度は業務委託業者の誘致により約4億2千万円の寄付金があったが、制度改正により本年度は2

億円から2億5千万円程度になるのではないかと危機感を持っている。今後も経費節減と寄付金確保に努めた財政運営を進めていかなければならないと考えている。



ふるさと錦寄付金関係 (PR)

## 6月議会答弁後の状況は

**金山** 町道松里線速度規制の県公安委員会への要望については。

**町長** JAガソリンスタンドから松里線までの町道改良後の交通状況等を見て判断したい。

**総務課** 比率が低い方が財政面では良いと言われている。状況として人件費と公債費が県平均より下回っていることが挙げられる。

**金山** 比率が前年度より低下した要因は。

# 不登校の支援について

**石松** 不登校の児童生徒は、全国小中学校で10年連続の増加となり、過去最多を更新。コロナ禍が不登校の原因と言われているが、錦町における現状と対策は。

**教育振興課** 本町においては10月末で、小中学校の児童生徒合計15人。対策としては、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、療育等の福祉・医療関係者と一人一人にあった対策を段階的に共有しながら、学校に登校できるような取り組みをしている。

**石松** 不登校を放置すると子供達の教育や進学、そして就職の機会を失う。原因の把握と解消に向けた対策は。



いしまつ まゆこ 議員  
石松 まゆ子

**教育長** 子どもたちの育ちの環境が多様化している中で、各部機関との連携を密に図り、各学校を中心に対策を考えながら、改善と未然防止に力を入れて取り組んでいる。特に子供一人一人原因などは違う中で、最終的な学力保障・自立していく力をどうやって繋げるか学校と共に考えている。

**教育振興課** 希望がある家庭には、タブレットを配布してタブレットによる学習機会の提供を行なっている。

**石松** 不登校児童がいる現状を受け止め、本人の実態に応じた学びの場所や居場所づくりは今後必要になってくると考えるが、フリースクールの取り組みは。

**町長** 義務教育を課せない学校であり、非常に難しいと思うが、必要であれば考えていく。

## 球磨村大王原公園仮設団地のその後

**石松** 被災から3年が過ぎ、被災者の皆様方も災害公営住宅への移設が進んでいるが、現在の状況と今後の方針は。

**総務課** 11月末時点で6世帯の方が入居されているが、令和6年3月末で球磨村災害公営住宅へ入居予定。仮設団地の今後の活用として、15棟の60戸、集会場1棟を県から譲渡を受けて町有住宅として整備する方向で考えている。



球磨村大王原公園仮設団地の有効利用を

**石松** 多目的な取り組みを進めたらと考えるが、町としての今後の活用方法は。

**総務課** 町有の住宅として活用。用途として町内企業従業員の社宅的な活用、移住定住の施設、被災者の一時入居住宅等として検討している。

**町長** 町の町営住宅も古くなってきており、希望者には移転してもらおうことや町内企業従業員の住まいとして利用希望があっている。そのような活用を考えている。

## 畑地化支援について

**石松** 令和6年以降の国の支援単価が流動的な中、畑地化支援を町としてはどう進めるのか。

**農林振興課** 要望調査を行い、水張5年ルール等の国の方針を周知し、農業者への不利益がないように進める。

# 遊水地計画の問題点をめぐって



おかだ たけし 議員  
岡田 武志

**岡田** なぜ、遊水地の計画地が本町に集中しているのか？

**地域整備課** 八代河川国道事務所に問合わせたところ、球磨川本線においては、確保できる面積、急勾配などを考慮した結果、錦町を候補地にしたと聞いている。

**岡田** 錦町のどこに計画されているのか、又、どのような遊水地があるのか。

**地域整備課** 西地区に1ヶ所、一武地区に1ヶ所、木上地区に2ヶ所で、平常時は、農地として利用する「地



錦町遊水地候補箇所

役権方式」と用地を買収し建設する「掘込方式」がある。

**岡田** 西地区（柳詰地区）は、「掘込方式」ということで、設置場所や地域住民の理解もいただけると思う。その他の一武地区、木上地区の地役権方式の遊水地建設については地域住民の理解を得るのは、現状では難しいと思う。

私達錦町議会は、阿蘇の黒川、小倉遊水地を観察してきた。遊水地自体は大変よく出来ていてすばらしい物であったが、阿蘇はカルデラ、球磨は盆地で、地形の違いや、流れる河川の大きさ、数が違う。一つは計画予定地が、錦町の優良農地であり、農家が打撃を受けること。遊水地は本町より上流から流れてくる水を溜める施設であるが、本町に降った雨水はどこに行くのか疑問である。町長の考えは。

**町長** 私にとっては非常に厳しい判断であり、何が町民の方々にとって一番いいのか、皆さんの意見を聞きながら判断していく。

**岡田** 令和2年7月豪雨があり、白紙撤回された川辺ダムが流水型ダムとして復活、堆積した土砂の撤去、川底の掘削、堤防の改良、市房ダムのかさ上げ、そして遊水地の整備などさまざまな対策が講じられている。今回の遊水地建設の説明は国交省によるもので、農水省からはなかった。現状では私は反対だ。

**岡田** ふるさと納税の制度が改制され、本町への影響は。

**企画観光課** 今回の制度改制により、返礼品の原材料が、当該自治体と同一の都道府県内産であるものに限るとなり、1位（48%）のペットボトルのお茶が、対象外となった。

**岡田** ふるさと納税を財源として、給食費の無償化をはじめ、子供達の生活、教育支援に使っている。今回の制度改制をピンチをチャンスととらえて、返礼品のさらなる磨き上げを願う。



ふるさと納税の制度改制について

## 農業の生活を脅かす遊水地計画 反対運動で、国は計画断念するのか

**早田** 遊水地計画予定地について、本町の認識は。

**農林振興課** 基盤整備が実施され、生産条件に恵まれた平坦地の優良農地で、担い手への集積や集約が期待される一団の農地であり、今後も確保していかなければならない農地と認識している。

**早田** 国は、反対運動が広まった時、計画を中止にするのか、強制的に建設するのか。



わさだ かずひこ  
**早田 和彦** 議員

**地域整備課** 河川整備計画にて球磨村から市房ダム付近の区間で整備を行うことが明記されており、計画対象期間の概ね30年間は中止にはならず、長いスパンで計画を進めると思う。また、計画の地役権方式でも土地収用法が適用されることも可能ではあるが、国土交通省は説明会において、強制収用は考えていないと回答している。

**地域整備課** 河川整備計画にて球磨村から市房ダム付近の区間で整備を行うことが明記されており、計画対象期間の概ね30年間は中止にはならず、長いスパンで計画を進めると思う。また、計画の地役権方式でも土地収用法が適用されることも可能ではあるが、国土交通省は説明会において、強制収用は考えていないと回答している。



遊水地計画 反対看板 (木上地区)

**早田** 遊水地計画への町長の意見は。

**町長** 国、県に対し、本町においての遊水地計画は厳しいと話をしている。今後においても、意見を吸い上げて国、県に話をしていきたいと思う。

### 性的マイノリティに関する理解と学校における対応は

**早田** 性的マイノリティに関して、教育長の考えは。

**教育長** 教員になりたての頃、勤務先の学校に性的マイノリティの生徒がおり、第二次成長が始まり、男性、女性のどちらの性を選択するのか、本人そして家族の悩みは相当に深く、高校進学の際に希望する進路の壁になっていくことを知った。40年以上たつて、性的マイノリティ、性の多様性に関しての認知はかなり進み、メディアでも取り上げられている。

実際にそのような児童、生徒がいた場合の支援については、制服やトイレ等の物的な問題もあるが、最大の支援は周囲の理解だと思う。初めに受け止め理解すれば、自ずと支援の方策が見えてくると思う。幸い今、それぞれの学校では、校長先生を中心として先生方も研修を重ねていただいているし、スクールカウンセラーも配置されている。40年以上前の学校の環境とは随分と違っているのが現状。もし、そのような思いのお子さんがおられたら、学校もしくは教育委員会に是非相談いただきたいと思うところはある。躊躇なく対応して、しっかりと支援していきたいと思っている。

**早田** 実体験に基づいた体験談、熱い思いを聞かせていただいた。「一番の支援は、周囲の理解」強く印象に残った言葉である。

# 人吉球磨の将来を慮る



あらかわ こういち  
荒川 孝一 議員

**荒川** 私が思うに県南、特に人吉球磨はもう危篤状態に入っている。又、県北県央のTSMC進出で沸

ることは予想しているし、そうなるのを頭に入れて今後活動していきたい。

き立ち特に若い人達も流出してい

く。人吉球磨の10年後のためにも、

**荒川**、タイミング、これが大事。地域住民にいきなり合併しますと言っ

ことは、合併協議会とかテーブルを

ても絶対無理。私はリーダーが人吉

作る、作って現時点での合併メリッ

球磨の将来の為、勉強・合併の話を

ト・デメリットを論議するのではな

しようと言い出した時に前に進むの

く、将来を見据えた合併した時の

かなと思っており、森本町長が今、

メリットを最大限に利用できる議論

人吉球磨の首長たちのリーダーだと

と、デメリットを最小限にする議論

思っているので申し上げた。

をしていくべきだと思っただが。

**町長** 言われようとするのは十分分

かる。最終的には町民皆さんの意

見に従うが、私の考えの判断は先ほ

ど述べた3項目、これを見極めるこ

とに尽きる。そういう考えの中で、

今、私もいろんな町村長と話をして

いる。言われるように、このままで

は人吉球磨の将来は本当に厳しくな



旗は一つになれるか

**荒川** 人吉球磨は一つ。誰もが口にする。だが、掛け声ばかりで何が一つなのか解らず聞き飽きたし、このままでは人吉球磨の将来は暗いと懸念される。町長、人吉球磨10市町村合併について現在の所見を聞きたい。

**町長** 合併に関してはまず町民が幸せになることが一番であり、そして発展していくこと。それから合併した相手先とのグループで将来を展望

できる、そういう状態にならないければ私は合併そのものは非常に難しいなと思っている。端的な考え方をすると、人吉市が過疎（過疎法により過疎地域とされた市町村）になった。ほかの町村も全て過疎、錦町だけが過疎ではない。又、高齢化率もほかの所は40%とかその類で、錦町が36%と一番良い。企業誘致という点でも錦町が今まで頑張ってきた。合併して町民が幸せになるか、錦町が合併して優位性を保つことができるのだろうか。或いは、合併してその自治体全体が伸びていくだろうかということを考え合わせてみると、現時点では私は厳しいのではないかと考えている。



議会では、ペーパーレス会議システム導入事業として、タブレット端末を導入します。3月定例会の運用開始（しばらくは紙媒体との併用）を目標に、研修などを実施中です。タブレット端末導入によりペーパーレス化が図られることはもとより、事務の効率化も期待できます。



タブレット端末の画面はA4サイズと同じくらいです。議案などの資料を入れることができます。右の写真は12月25日の臨時議会に提出された議案です。

### 【これまでの主な経緯と今後の計画】

令和5年

- 12月19日（火） 第1回タブレット端末研修（全2回）
- 12月25日（月） 議会臨時会にて試験運用（紙媒体の議案との併用）

令和6年

- 2月中～下旬（予定） 第2回タブレット端末研修（全2回）
- 3月 議会定例会にて運用開始（紙媒体の議案との併用）



第1回タブレット研修の様子（執行部も参加しました）

# 令和5年 総務建設常任委員会

## 研修報告



### 1 研修参加者

委員長 吉田 眞二  
副委員長 丸小野 聖一  
委員 荒川 孝一、池田 秀晴、  
竹田 農利人、早田 和彦  
随行者

総務課主幹兼財政係長 矢野 智浩  
総務課管財係参事 鎌田 直樹

### 2 研修期日及び研修目的

令和5年11月13日（月）

#### ① 熊本県高森町

一般社団法人南阿蘇鉄道管理機構  
「南阿蘇鉄道全線運転再開に向け  
た取組みについて」

令和5年11月14日（火）

#### ② 熊本県熊本市

熊本県防災センターおよび球磨  
川流域復興局  
「住民の安全確保や危機管理対応  
について」

#### ③ 熊本県西原村

「災害応急仮設住宅の活用について」

### 3 研修内容

#### ① 熊本県高森町

一般社団法人南阿蘇鉄道管理機構  
「南阿蘇鉄道全線運転再開に向け  
た取組みについて」

平成28年熊本地震により被災した南阿蘇鉄道は、南阿蘇村と高森町をつなぐ10駅からなる路線で、被災後の平成29年度に熊本県副知事を会長とした南阿蘇鉄道再生協議会を設立した。鉄道用地及び鉄道施設の上下分離方式を導入し、交付税措置を含めて97・5%を国から支援を受けている。また、災害後からの輸送人員の回復も見込まれ、JR豊肥本線との直通乗り入れを開始し、新型車両やトロッコ列車、ワンピースコラボ列車の導入により、移動手段だけでなく観光鉄道としての側面も大きく路線の維持に寄与していると思われる。



立野駅での説明



観光ワンピース列車

## ② 熊本県熊本市 熊本県防災センターおよび球磨 川流域復興局

「住民の安全確保や危機管理対応  
について」

過去の災害経験を基に災害発生  
のメカニズム等の展示、プロジ  
ェクションマッピングやVRゴ  
ーグルによる学習もでき、災害に  
備えなければと考える機会とな  
った。また、防災センター2階に  
は実際の災害発生時に指揮をと  
るオペレーションルームもあり、  
災害に特化した機能を集約した  
施設であった。

緑の流域治水による復旧・復興  
プラン、球磨川水系河川整備計画  
に基づく説明および被災後の取  
り組みについての紹介があった。  
田んぼダムなどの実証実験も  
始まっており、ハード・ソフト  
一体として事業を進めていくと  
のことであった。



災害状況説明



防災センター会議室

## ③ 熊本県西原村

「災害応急仮設住宅の利活用につ  
いて」

平成28年熊本地震による西原  
村の応急仮設住宅であった小森  
仮設団地では、利活用事業等を  
活用して46戸の住宅を総事業費  
1億9千823万9千79円を  
かけて整備した。事前に本町の  
大王原仮設団地を見学しており、  
利活用事業と内容がほぼ一緒で、  
木造住宅の構造も似たようなも  
のであった。

家賃については著しく低い金  
額に設定されており、被災者が  
そのまま住まわれることを前提  
にしているためと思われる。

本町も大王原仮設団地を今後  
いかに活用するかを考えるべき  
である。

以上、今回の総務建設常任委  
員会の研修は、災害が起こる前  
の対策、災害時の対応、そして

災害後の行動についての研修で  
あった。これらの対策は、災害時  
に限らず、日頃からの備えが大  
切で、避難所等の確保や避難路  
の整備は公助が中心となる。ま  
た、防災教育・防災訓練は学校・  
地域家庭が連携して行うことが  
必要であり、自助・共助・公助  
の連携が不可欠であると再確認  
できた研修であった。



西原村災害仮設住宅研修

# 令和5年 厚生文教経済常任委員会

## 研修報告



### 1 研修参加者

委員長 高田 孝徳  
副委員長 谷口 一也  
委員 金山 民幸、岡田 武志、  
石松 まゆ子、梶原 誠二  
随行者  
教育振興課 課長 尾方 良一  
農林振興課 主事 中村 優誠

### 2 研修期日及び研修目的

令和5年11月16日（木）

①宇城市  
宇城市立不知火美術館・図書館  
「図書館の利用状況等について」  
②鹿児島県長島町  
道の駅黒之瀬戸だんだん市場  
「地域特産品について」

令和5年11月17日（金）  
③葦北郡芦北町  
芦北町総合コミュニティセンター  
「総合コミュニティセンター整備  
の経緯及び利用状況等について」

### 3 研修内容

①宇城市  
宇城市立不知火美術館・図書館  
「図書館の利用状況等について」

斬新なデザインの美術館・図書館と熊本地震災害仮設住宅の集会場を移転改築された「こどもえほんの家」を併設した複合施設となっており、来館利用者の状況等について視察研修を行った。

改修前の図書館は、年間来館者約6万人であったが、昨年度来館者は約48万人へと大きく増加し、子どもから大人までがゆつくり、のんびりと過ごすことのできる憩いの場となっており、コーヒースタアスターバックスが出店するブック&カフェエリア、児童書・エンタメエリア、本のオアシスエリア、学習席エリアの4フロアで構成され、目的に合った図書スペースの設定により、来館者を満足させる造りとなつて



宇城市立不知火美術館・図書館

いた。併設の「こどもえほんの家」には、平日でも多くの親子が来館し、土・日にはフリーマーケットやキッチンカーが並ぶ中庭広場もあり、多くの来場者で賑わいを見せるとのことであった。スターバックスが入った図書館で話題性があり、人気店であることから、交流人口の増加は見込めるが1店舗当たり10万人の人口規模と設定され、8万人



宇城市立不知火美術館・図書館

ほどの人吉球磨地域には厳しい条件となる。地域貢献等も勘案した独自ルールもあるということであり、交流人口増加を目的とした圏域設定等のアイデア創出が必要と思われる。

魅力的であり、集客の核となりうると考える。

## ② 鹿児島県長島町

### 道の駅黒之瀬戸だんだん市場

#### 「地域特産品について」

鹿児島県北西部の長島の黒之瀬戸大橋近くにあり、海産物を中心に地域の野菜や果物、焼酎など多くの商品が並ぶ地域の情報発信地となっていた。

生け簀では、伊勢海老、サザエ、鯛、アジなどが安く販売されており鮮魚を求めての来客も多く、釣り人も立ち寄る賑わいのある道の駅であった。

## ③ 韃北部芦北町

### 芦北町総合コミュニティセンター

#### 「総合コミュニティセンター整備の経緯及び利用状況等について」

施設管理費の節減、共有する空間の有効活用、連携による相乗効果を目的に図書館、公民館、子どもの広場、研修室等を一体化した複合施設であり、令和2

年12月に開館した。

「すべては次代を担う子供たちのために」をコンセプトに、あらゆる世代が集い、学ぶ場所として、図書館機能と学習する空間を有し、蔵書5万6千冊があり、次代を担う子どもたちを育む場所としての子ども広場、人が出会い、つながり、学習し、継承する公民館、展示室などが整備され、地元産及び県産材の杉をフルに活用した木造2階建ての温もりを感じる建物であった。

来館者は令和4年度約15万人であり、そのうち子どもの広場の利用者は、4割が町外からの来館者であった。また、国道や県道から近く、肥薩おれんじ鉄道佐敷駅と連結する建物となっており、周辺には体育施設等も整備され、一体的な整備がなされていることから、児童や園児の遠足などにも利用される利便性の高い施設となっていた。

以上、2つの異なる複合施設

を視察研修したが、いずれの施設も多額の経費を投じて整備がなされており、過疎債が活用できない本町にとっては、財源確保の問題や大型事業としての投資に対する厳しい目が向けられると予想される。そのためには、明確な基本構想の策定が必要であり、その基本構想の実現のため、ハード面の整備とあわせソフト面の充実も必須となりそのための人材育成も重要と考える。

本町において、図書館や青年会館の老朽化に伴う整備が必要と思われるが、こどもセンターなど多目的施設としての整備が図られるよう検討してもらいたい。

また、その施設を運用するソフト面を具体的に計画し、将来を見据えたハード、ソフト両面において運営者、来場者それぞれが満足できる施設となるよう慎重に検討願いたい。

# 議会のうごき

# 熊本県町村議会広報研修会報告

発行日／令和6年1月31日

印刷／(有)町田印刷  
編集／錦町議会広報特別委員会

熊本県球磨郡錦町大字一武一五八七七  
TEL 0966-3814421

10月

- 2日 全員協議会
- 6日 熊本県町村議会議員研修会
- 10日 令和5年第6回臨時会
- 11日 定例郡議長会
- 12日 広報特別委員会
- 15日 第61回町民体育祭
- 16日 人吉・日向間一般国道整備促進期成同盟会総会  
例月出納検査（・23日）
- 17日 郡町村議会議員親善グラウンドゴルフ大会
- 18日 定期監査（～19日・23日）
- 19日 広報特別委員会
- 24日 町村監査委員全国研修会（～25日）
- 30日 財政援助団体等監査・備品監査
- 31日 森林・林業・林産業活性化九州大会

11月

- 1日 全員協議会
- 4日 第46回ふるさと祭り
- 9日 町村議会広報研修会
- 11日 球磨川流域橋梁着工式
- 13日 総務建設常任委員会研修（～14日）
- 16日 厚生文教経済常任委員会研修（～17日）  
定例郡議長会
- 21日 例月出納検査（～22日）
- 22日 人吉下球磨消防組合議会定例会
- 24日 議会運営委員会  
人吉球磨広域行政組合理議会定例会（～12月22日）
- 27日 議長全国大会及び産業行政視察研修（～29日）

12月

- 1日 全員協議会
- 4日 球磨郡町村監査委員連絡協議会研修
- 5日 令和5年第4回定例会（～8日）
- 14日 例月出納検査（～15日）
- 19日 議会タブレット研修
- 21日 郡議長・副議長合同会議

全国広報研修会に続き、県の研修会に広報委員会で参加した。

今回の研修会では、各町村の議会広報誌を事前に読み、それぞれの広報誌にコメントを出し、討論型形式で各代表者へ質問を出していくというもの。本町委員会からは、議長、委員長が代表として、出された質問に答えていく内容となった。それでは、幾つかご紹介。

- 「～について」が多すぎるのでは。  
極力入れない方が良い、との指摘。
- 「ほおじろ」のフォントが少し怖い。
- 「リード文が詳しく、議会の内容がつかめる」。リードとは、記事の要約のこと。
- 平均発行日数が20日と早い。等々。

全体的には、厳しいコメントはなかったと感じて本町議会への質問は終了。最後に、講師の先生より、広報作成のポイントと講評があり本町広報誌のクリニック終了となった。

今回の研修を終えて、各町村それぞれの形があり、全てに合わせることは無理がある。しかし、共通していることは、住民に理解される広報誌を作るということ。

今後も、町民の方々に理解しやすい広報誌作成と発行に努めたい。



## 軌跡

災害は時と場所を選ばない

日本中が、健康で明るい1年になることを願い新年を迎えていた、令和6年1月1日、「石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震」が発生した。石川県能登地方は令和2年・4年・5年に震度5強の地震が発生している。地震大国日本といわれているが、それが元日にこのような大災害を予想したであろうか。想像もしなかったに違いない。この地震でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、けがをされた方々の1日も早いご回復をお祈り申し上げます。

最大震度7の熊本地震で錦町災害ボランティアとして参加をした。住宅の倒壊、道路のいたる所でアスファルト舗装は捲れ亀裂が入り、災害の恐ろしさを目の当たりにした。住民の方の「自分ではどうすることもできない。有難うございました。」この言葉を今も忘れることができない。災害は時と場所を選ばない。いつ起こるかかわからない災害・防災について学んでいかなければと改めて考えさせられた地震である。

(文責 吉田 眞二)

### 【広報特別委員会】

委員長 早田 和彦 委員 石松まゆ子  
副委員長 丸小野聖一 委員 高田 孝徳  
委員 吉田 眞二

議長 荒川 孝一